

CLINIC
ばんぼう

開業医をサポートする総合情報誌

BAMBOO

October
2019.10
Vol.463

[特集] 職員を経営者に変える

NPS[®]活用 マニュアル



工藤千秋
医療法人くどうちあき
脳神経外科クリニック
院長



出井伸之
クオンタムリア株式会社
代表取締役



日置真太郎
株式会社GENOVA
取締役
大島昇
渋谷区前おしま皮膚科
院長



小暮裕之
医療法人社団モルゲンロート
有明こどもクリニック
理事長



新しい
診療所の
かたち

くどうちあき

脳神経外科クリニック

(東京都大田区)

癒しを感じられる抜群の環境のなか
多職種による心身を治す医療を提供

東京都大田区の大森で2001年4月に開院した、医療法人くどうちあき脳神経外科クリニック。
「癒しの森」というコンセプトをもとに空間デザインと、充実した医療設備とスタッフを擁し、
患者の心身を癒すことに取り組んでいる。

撮影：関口宏紀



広々とした待合室。季節が変わるごとに生け花やソファの色を
変えるなど定期的に患者の目を楽しませている



待合室の奥に設置されているウォーターカーテン。ライト
アップされた青色のグラデーションが幻想的な景色を生み
出している

オフホワイトを基調とした色合いに間接照明の穏やかな雰囲気がかき添う。ほのかに香るアロマやウォーターカーテンの心地よい流水の音。最上級ホテルのようでありながら、オレンジやイエロー、グリーンがアクセントとなっており、不思議と敷居の高さを感じられない。誰にとっても快適な空間が作り出されている。「患者の心身を癒す空間をつくることで、身体だけでなく、心も満たされる診療所を目指しています」と工藤千秋院長は説明する。

「癒しの森」がコンセプトである院内の空間づくりは細部にわたり徹底されている。たとえば、CT室には、天井にブラネタリウムを設置し、幻想的な空間をつくり出している。本棚に木の机、大きなソファがある診察室は、リビングと書斎が融合したおしゃれなコワーキングスペースを思わせる。

工藤院長は、機能的でデザイン性の高い空間で、患者と落ち着いた話し合うことを信条としている。

「きっかけは海外留学でした。欧米の病院や診療所は、重厚なカーテンやシャンデリアがあり、ゴー



本や家具が置かれた診察室。患者は家のいるような気持ちで医師と話せる環境になっている



「病氣の水先案内人として、生涯にわたって1人の患者を診ていく診療を心がけている」と工藤千秋院長は語る



天井に星々が映し出されるCT室。検査中にリラックスしてもらうように工夫を凝らしている



診療所DATA

医療法人くどうちあき脳神経外科クリニック

診療科：神経内科、心療内科、脳神経外科、整形外科

住所：東京都大田区大森北1-23-10

電話：03-5767-0226 URL：<https://www.kudochiaki.com/>

アクセス：JR大森駅より徒歩8分／京急大森海岸駅より徒歩10分



患者のご家族が描いた大きなフレスコ画「ちあきの森」。森に見立てられた待合室からさわやかな庭園を眺めるという構想のもと描かれた

ジャズでありながら、家族の写真が飾られるなど親近感もあつたのです。こうした空間のなか、患者さんは自分のなかに溜めていた思いを存分に吐き出され、診察室を出るころには元気になっていました。そんな空間を自分もつくりたいという想いが現在のスタイルに結びついています」

アメニティーの充実が目につく一方で、医療面に関しても特筆する点が多い。CTやMRIといったハードに加え、心理療法士やセラピスト、放射線技師など総勢約50人のスタッフを擁し、患者の症状に合わせた、さまざまな検査や治療ができるよう、万全の体制を敷いている。

最近力を入れているのは認知症治療。認知症治療の第一人者と言われる田平武先生（順天堂大学大学院医学研究科、認知症診断・予防・治療学講座教授）を招き、2015年12月から認知症早期発見予防・治療センターを開設した。

「今後のテーマは、後継者探しや認知症、うつ、頭痛など、それぞれの部門のエキスパートを育成、あるいは招へいし、次代を担う人材を育てていきたい」